

「第 81 回岩手県総合計画審議会及び第 1 回部会（11/8 開催）」時に出された 次期総合計画に関する主な御意見等について

1 第 81 回岩手県総合計画審議会

(1) 岩手県総合計画審議会への部会の設置について

御質問	回答
<p>部会は、中間答申に係る審議を予定している第 5 回部会をもって解散することとなるか。</p> <p>その後、平成 31 年 2 月までの間は、開催されないと考えて良いか。</p>	<p>審議の状況により、必要に応じて予定している以外の時期に部会を開催することも考えられますが、基本的には、来年 5 月の中間答申（案）の審議までの期間で、集中的な審議をお願いしたいと考えております。</p>

(2) 個別分野への対応

御意見	回答
<p>障がい児支援員の増員が必要であり、市町村単独費での対応が厳しくなっている。障がいを持った子どもたちが全て特別支援学校に入学するわけではなく、普通学校を希望されるケースも多く、受け入れした学校における対応に関わってくる。一部でも良いので、県にも費用を負担願いたい。</p> <p>また、こうした子どもたちへの支援は、次期総合計画の中でも位置付けていくべきではないか。</p>	<p>市町村が配置している特別支援教育支援員につきましては、国からの財政措置を活用し、配置を進めていただいているところです。</p> <p>県では、小中学校に支援の必要な児童生徒への対応にかかわる非常勤講師を配置しており、また、高等学校には特別支援教育支援員を配置して対応しているところです。</p> <p>本審議会における御議論等を踏まえ、今後、障がいのある児童生徒への支援のあり方について検討してまいります。</p>
<p>漁獲量が減少していることから、獲ってくる漁業から、養殖などに切り替えていく必要があり、今後 10 年を見据えると、新たな水産業の在り方を検討していく必要があると思われるが、如何か。</p>	<p>御指摘のとおりサケの漁獲量は減少しており、震災の影響で 4 年魚、5 年魚が帰ってくる時期に放流できなかったことが原因となっています。</p> <p>また、最近では、サンマの水揚げ量も減少しており、海水温の影響などが原因と考えられています。</p> <p>本県においては、漁獲の他、養殖についても従前から力を入れているところではありますが、次期総合計画の策定に当たっては、最近のこうした状況を踏まえ、今後の水産業においてどこに力を入れていくべきかなどについて、本審議会における御議論等も踏まえ、検討してまいります。</p>
<p>県内では、法人後見制度を始めている地域もあるが、受け皿となる団体があるから良いということではなく、まだ活用が進んでいない実態にある。</p> <p>また、本県では、県社会福祉協議会を中心に、成年後見を補完する制度として、「あんしんねっと」を運用しており、地域の支えの基幹になっていることから、今後のアクションプランにおいても位置付けを考えていく必要があるが、如何か。</p>	<p>いただいた御意見を踏まえ、強い部分をさらに強くし、不足している部分を補う形となるよう、次期総合計画の策定に当たっては、本審議会における御議論等を踏まえて、検討してまいります。</p>

2 第1回部会

(1)「暮らし」部会

① 県の政策等の情報発信について

御意見
本審議会に参加すると、県の施策について、知らないことが多いことに気づかされる。盛岡等、県庁に近い地域の県民は知っていることかもしれないが、沿岸では一切聞いたことがないものもある。同じ県内でも情報格差があると感じる。良い政策を作っても県民に周知されなければ絵に描いた餅になるので、情報発信についても県庁とも一緒に考えていきたい。

② 仕事と子育ての両立支援について

御意見
働いている親が仕事に加えて何かに関わろうとすると負担が大きく、サポートが必要になる。
子育てにおいて家族のつながりは必要であるが、他人の支えも必要。ただし、ベビーシッター代などの負担が大きい。共働きに対する支援は本来、国の役割と思うが、県もできる限りのことを考えていただきたい。
ダブルケアで苦勞している女性が多いことから、女性の日常生活の中の課題について、寄り添いながら考えていくことが必要。
家族のありようが変化している。岩手らしさによる変化と、グローバルな時代の中での変化とあるが、どちらも理解した上で関わっていかないと難しい。 自己決定と自己責任で明確にしなければならないことが多くなっている時代。良い意味で曖昧さがあって欲しい。寛容なというか、察するというか、そのようなものがあるのとないのでは幸せ感が違ってくる。

③ 医療について

御意見
岩手の精神医療資源、医療資源、そして児童精神医療について、どれくらいレベルを高められるかについて考えていく必要がある。

④ 地域コミュニティについて

御意見
人口減少を踏まえ、地域を超えた交流や助け合いについて考えていく必要がある。
後継者がいないというより、後継者をあきらめている人が多い。復興支援でできたつながりを通じて、誇り再生が実現できている。住んでいる人が誇りを持っていればいるほど良いまちになる。

⑤ 暮らしのゆたかさについて

御意見
高度成長の時の豊かさとは違う豊かさがあると若い人たちは感じている。そこをパラダイムシフトできる環境を整えていく手助けが必要である。

⑥ 市町村に対する県の支援について

御意見
これまで地域や家族で行ってきたことが市町村でやらなければならなくなっているが、人材も財源も限りがある。県からも財源の支援をして欲しい。

(2)「仕事」部会

① 企業が求める人材について

御質問	回答
<p>企業が求める人材にも様々ある。いわゆるブルーワーカーなのか、ホワイトワーカーなのか。ホワイトの中でも、いわゆるテクニカル分野なのか営業なのか事務なのか。</p> <p>求人の中の、それぞれの職種がどれくらいを占めているのかを知りたい。</p>	<p>岩手労働局が公表している「平成 29 年 9 月一般職業紹介状況」における職業別の有効求人数の状況は、下記のとおりです。</p> <p>全体数 26,685 人(常用一般及び常用パート)のうち、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サービスの職業」6,045 人(約 22.7%) ・「専門的・技術的職業」4,134 人(約 15.5%) ・「販売の職業」3,827 人(約 14.3%) ・「生産工程の職業」3,758 人(約 14.1%) ・「運搬・清掃・包装等職業」2,259 人(約 8.5%) ・「事務的職業」2,000 人(約 7.5%) ・「建設・採掘の職業」1,784 人(約 6.7%) ・「輸送・機械運転の職業」1,534 人(約 5.8%) ・「保安の職業」913 人(約 3.4%) ・「農林漁業」361 人(約 1.3%) ・「管理的職業」61 人(約 0.2%)

② 県内就職者・Uターン就職者等について

御質問	回答																												
<p>県内高卒者・学卒者の県内就職者のうち、ブルーワーカーとホワイトワーカーの内訳、民間就職者と公務員就職者の内訳を知りたい。</p>	<p>○ 平成 28 年度学校基本調査(文部科学省)によると、県内高等学校卒業者の民間就職者は 2,053 人、公務員就職者は 144 人です。なお、その内訳は不明です。</p> <p>○ また、内訳について、県内のみのもがないため、県内外で把握すると、岩手労働局が公表している「平成 29 年 3 月新規高等学校卒業者を対象とする職業紹介状況」における県内外就職者数 3,177 人(公務員除く)の職業別の就職者数は下記のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「技能工等」1,643 人 ・「サービス」566 人 ・「事務」354 人 ・「販売」297 人 ・「管理・専門・技術」226 人 ・「その他」91 人 <p>○ 平成 28 年度県内大学卒業者の県内外の民間・公務員就職者数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>民間</th> <th>公務員[※]</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岩手大</td> <td>682</td> <td>343</td> <td>1,025</td> </tr> <tr> <td>県立大(四年制)</td> <td>350</td> <td>66</td> <td>416</td> </tr> <tr> <td>盛岡大(四年制)</td> <td>303</td> <td>98</td> <td>401</td> </tr> <tr> <td>富士大</td> <td>114</td> <td>9</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>医科大(薬学部のみ)</td> <td>50</td> <td>1</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,499</td> <td>517</td> <td>2,016</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「公務員」には、教員・警察を含みます</p> <p>○ 公務員就職者につきましては、「地方公務員給与実態調査」(総務省)によると、下記のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度：1,719 人 (うち、大卒 1,093 人、短大卒 350 人、高校卒 274 人、中卒 2 人) 		民間	公務員 [※]	計	岩手大	682	343	1,025	県立大(四年制)	350	66	416	盛岡大(四年制)	303	98	401	富士大	114	9	123	医科大(薬学部のみ)	50	1	51	合計	1,499	517	2,016
	民間	公務員 [※]	計																										
岩手大	682	343	1,025																										
県立大(四年制)	350	66	416																										
盛岡大(四年制)	303	98	401																										
富士大	114	9	123																										
医科大(薬学部のみ)	50	1	51																										
合計	1,499	517	2,016																										

御質問	回答																																		
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度：1,618 人 (うち、大卒 1,047 人、短大卒 315 人、高校卒 255 人、中卒 1 人) ・平成 25 年度：1,241 人 (うち、大卒 879 人、短大卒 179 人、高卒 183 人) <p>○ 公務員の職種につきましては、一般職員、教育公務員、警察官、特定地方独立行政法人職員に区分されており、平成 27 年度は、一般職員 1,347 人、教育公務員 248 人、警察官 119 人、特定地方独立行政法人職員 5 人となっており、一般職員が 7 割以上を占めております。 なお、一般職員のうちの技能労務職員は極めて少ない状況です。</p>																																		
<p>どれくらい的人数が、どの地域に、どのような職種に U ターン就職しているのか。現状のデータが欲しい。10 年後を見ていく上では、U ターン者を把握することが肝だと思う。</p> <p>県内には、地域おこし協力隊として、今までは岩手にいなかったような属性の人たちが来ている。こうした人たちを、民間で生かすのか、NPO で生かすのか、公務で生かすのかを探るためにも、U ターン者の把握は必要だと思う。</p>	<p>○ U・I ターン者数は、平成 28 年度 751 人、平成 27 年度 859 人、平成 26 年度 794 人となっています。 なお、過去(H13～28)の公共職業安定所取扱分、U ターンセンター登録分の合計の動向は下表のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="536 875 1477 965"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>13</th> <th>14</th> <th>15</th> <th>16</th> <th>17</th> <th>18</th> <th>19</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> <th>28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>809</td> <td>853</td> <td>816</td> <td>753</td> <td>776</td> <td>703</td> <td>780</td> <td>714</td> <td>809</td> <td>697</td> <td>743</td> <td>777</td> <td>938</td> <td>794</td> <td>859</td> <td>751</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 県内各市町村で任用している地域おこし協力隊については、平成 28 年度の実績で 80 名が活動し、平成 28 年度までに退任された方のうち約 6 割が県内に定住しています。貴重な人材であることから、県としても、市町村や関係団体と連携し、本県への定住につながるよう取組を進めていきます。</p>	年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	人数	809	853	816	753	776	703	780	714	809	697	743	777	938	794	859	751
年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28																			
人数	809	853	816	753	776	703	780	714	809	697	743	777	938	794	859	751																			
<p>各地に来ている地域おこし協力隊は、任期が 3 年ということで、任期が終わったらその多くが泣く泣く岩手を去ってしまう。岩手を好きになって、住みたいという方が戻らなくて済むような制度などがあれば良いと思う。</p>																																			

③ 地域の産業について

御質問	回答
<p>県内の産業別・男女別の所得（収入）を知りたい。</p>	<p>○ 毎月勤労統計調査地方調査の結果（速報値）によると、平成28年平均の1人当たり「きまって支給する給与」（30人以上事業所）は、前年比1.5%増の243,463円となっています。</p> <p>○ 産業別では、建設業258,340円、製造業257,745円、情報通信業350,004円、運輸業・郵便業247,093円、卸売業・小売業162,924円、金融業・保険業355,598円、学術研究・専門・技術サービス業316,129円、宿泊業・飲食サービス業141,363円、生活関連サービス業・娯楽業145,604円、教育・学習支援業309,077円、医療・福祉268,189円、複合サービス事業284,815円、サービス業（他に分類されないもの）164,815円となっています。</p> <p>○ 男女別につきましては把握しておりません。</p>
<p>外国人労働者の状況を知りたい。 どのくらいの人か、どのようなルートで来て、どのような分野で働いているのか。</p>	<p>○ 岩手労働局が公表している岩手県における「外国人雇用状況」の届出状況（平成28年10月末現在）によると、本県の外国人労働者数は3,418人であり、前年同期比で596人増加しています。</p> <p>○ 分野別では、「製造業」が最も多く59.7%、次いで「教育、学習支援業」が9.6%、「農業、林業」7.3%、「卸売業、小売業」5.9%、「建設業」4.7%の順となっています。 なお、「製造業」の中では、「食料品製造業」が最も多く33.4%、次いで「繊維工業」が10.6%、「輸送用機械器具製造業」3.7%となっています。</p> <p>○ 在留資格別にみると、「技能実習」が最も多く58.0%、次いで「永住者」等の「身分に基づく在留資格」23.3%、「教授」等の「専門的・技術的分野」10.3%、「資格外活動（留学含む）」7.5%の順となっています。 なお、「身分に基づく在留資格」の中では、「永住者」が15.9%と最も多く、次いで「日本人の配偶者」6.2%、「定住者」0.9%の順となっています。</p>
御意見	
<p>北岩手は縫製業の集積地として知られている。縫製業の各社に共通するのは、機械ではなく人が主体の労働集約産業であることと、働く人の9割以上が女性であるということ。各地域に根付いている産業であり、久慈地域の製造業のうち2割が縫製業であるなど、地域の基幹産業と言える。</p> <p>全国の縫製業では、製造現場が海外へシフトしたため、この12年間で労働者が半数近くまで減ったが、北岩手では約8割程度も残っている。高い技術力を持ち、経営者自らが社員と一緒に働いて、存続させていることが理由。一方、労働力不足が大きな課題だが、人件費を高くできる訳ではない。</p>	
<p>旅館業も人手不足。これからもっと厳しくなってくるだろう。</p> <p>外国人観光客が全国で約2,400万人来ていて、東北の山奥の旅館にも10月は毎日外国人が来ていて、1カ月で69人も宿泊した。</p> <p>クールジャパンと言えば、やはり和食だと思うが、和食の調理師も不足していて、クールジャパンを提供できにくい状況。外国人にこちらが合わせるのではなく、こちらの事情に外国人が合わせてもらうしかない状況。それでも満足度を高めるには、おもてなしで高めるしかないのだが、おもてなしをする人材もないという状況。</p>	
<p>労働組合の組織率は低下していて、全国で17%くらい。組織率を上げ、健全な労使関係を築くことで、企業の発展にも繋がる。</p>	

④ 働き手の不足について

御意見
どの業界もそうだと思うが、やはり働き手の不足をどう乗り越え、知恵を出していくか。AI や IoT は避けては通れないことなので、働き方改革を含めて考えていかないといけない。
高齢化について、2025 年は団塊の世代が 75 歳を迎えるピークとなると言われている。ただ単に歳をとっていくのではなく、いかに幸せに歳をとっていくかが大事だと思うので、そうした課題認識が必要。
農林水産業の後継者をいかに確保するかが問題。収入をきちんと得ることができれば、農林水産業に参入する人はいると思う。

(3) 「学び・文化・スポーツ」部会

① 全体について

御意見
全体を通じて感じることは、岩手県はすごく良いものがあるのに、それが埋もれていることがもったいないということ。そういった中で、キーワードとして挙げられるのが「連携」。連携は、連絡協議会等でありがちな連絡だけに終わるものではなく、実質的な連携にしていくことが重要。

② 歴史・文化について

御意見
これからの地域づくりは、これまでの考え方を変えていくことが重要。例えば、平泉でも単に文化財を管理していくことから、いかに活用していくかの視点に切り替えて、活用方法についても国に要望しているところ。史跡を活用して、子育てやこころの教育につなげていき、地域の歴史を知ってもらうことが、郷土愛の醸成にもつながる。
沿岸は、震災によって地域コミュニティがバラバラになっている状況だが、歴史・文化の継承は行政が手を加えないと消滅してしまうと危惧している。県や市がそれらを大切なものとして訴えていく必要がある。

③ 子育てについて

御意見
岩手県の子育て環境において、子どもたちが外で遊んでいると、自分の家の敷地内であっても「うるさい」という苦情が学校に寄せられる。一方で、公園はボールの使用が禁止されており、子どもたちが外で遊ぶことに制約があり、子育てがしにくい状況であると感じている。
学力向上が重要視されているが、そのためには小さいうちから体を動かすことが重要であると思う。また、学力向上には、家庭状況も重要であり、ゆとりがあり、幸福感にあふれる家庭環境を築いていく必要がある。
8～9年前に郷土愛に関するアンケートを青山小学校の児童を対象に行ったことがあるが、子どもたちは地域に愛着を感じており、便利なものはそれほど重視していないという回答結果であった。当時の子どもたちは現在 20 歳前後であるが、それほど県外に出ておらず、また、県外に出た人も岩手が嫌いになって出ていったわけではなく、戻って来たいという気持ちを持っているという点は、ヒントとして活用していくべきである。
特別支援の関係で、県外からは岩手県は他団体との関係がスムーズであるという評価をされている。岩手県の強みはそういった関係性や風通しの良さであるので、そういったものを生かしていくことが重要である。

④ 教育について

御意見
グローバル化で海外との接点を持つ人が増えているが、海外に出て日本の歴史を語れない人も多い。若者が県外に出てみたいという気持ちは理解できるが、岩手県の歴史・文化、震災の経験などは子どもたちに伝えることはもちろんのこと、大人もそれらを語れるようになっていくことが重要。一方で、教育現場では、様々な地域から子どもが集まっている関係上、地域の伝統芸能を授業で取り扱えないといったこともあり、これらも含めて世の中が窮屈になっていると感じる。こういった意識は変えていかなければならない。
自分の住む地域や岩手に誇りを持つ、自分自身に自信を持つということが子どもたちを教育していくうえで大切だと考えている。そのためには様々な経験を積ませていくことが必要であり、褒めるべきところは褒め、厳しくすべきところは厳しくすることが重要。
岩手県は震災によって多くの方の命が奪われたこともあるので、思いやりのこころや命の大切さを教育の中で育んでいくことも重要。

⑤ スポーツについて

御意見
最近、スポーツが注目されていると感じる。スポーツは心を豊かにし、人と人とのつながりを強めるものであるため、スポーツをうまく使っていければと思う。また、体を動かす楽しさなどをオリンピックが伝えるといったことも効果があると思うので、うまく活用いただきたい。高齢者も含め、だれもがスポーツを楽しめるような岩手であってほしい。

(4) 「若者」部会

① 今後の部会の方向性について

御質問	回答
県として、若者部会における大まかなビジョンは、現段階であるのか。	若者部会のアウトプットのイメージとしては、全ての分野にわたるものではなく、いくつかのポイントに絞った形での御提言をいただきたいと考えています。

② 新たな働き方について

御意見
首都圏で働いている若者も、自己実現ができる仕事と関わるのであれば、岩手で活動や仕事をしていきたいと考える人もいるはず。岩手でも、Wワーク（副業を持つこと）やフリーランス（会社勤めではなく個人で仕事をする）を考えていくことが今後重要となる。

③ 岩手らしさを生かした仕事と暮らしについて

御意見
内陸と県南と県北で、それぞれの町の特徴を絡めながら、岩手だからこそできる若者の仕事や暮らしが見えてくることで、さらに岩手が良くなってくる。
全国総合開発計画により「均衡ある国土の発展」が進められた中で、岩手でも、よくある景色やよくある郊外地域が増えている。岩手のエッセンスを踏まえた、建物、景色、考え方を現代に即するような形にして、岩手に関わる人を増やしていくことが必要である。

④ 新たな価値の創造について

御意見

まちづくりには経済も必要であり、経済が回っていかなければ、まちづくりは持続可能ではない。技術が進化していく中で、CSV（共通価値の創造）をしていく必要がある。

⑤ 岩手のPR方法について

御意見

県の施策では岩手という言葉がすごく前面に出るが、言われれば言われるほど若者には響かない。気が付いたら岩手は良いと感じられる方が、住みやすく、暮らしやすく、幸せを追求しやすいのではないか。